

平成28年12月19日

稲田防衛大臣コメント

(これまでの経緯)

- 私は、今月13日に沖縄県名護市沖にオスプレイが不時着水した事故の発生を受け、14日未明にマルティネス在日米軍司令官と電話会談を行い、原因究明、十分な情報提供、安全が確認されるまでの飛行停止を申し入れました。
- その日の午前中に再び行った電話会談で、同司令官からは、
 - ・ 提案を受けて検討した結果、安全が確認されるまで日本国内にあるオスプレイの飛行を一時停止する
 - ・ 日本側と緊密に協力して本事故に対応していく、得られた情報は速やかに提供するとの回答を得ました。
- その後、防衛省としては、実務レベルを通じ、東京においても、沖縄においても、本事故に関する情報を在日米軍から入手することに努めてきました。
- その際には、今月13日に脚部を故障したオスプレイが普天間飛行場に着陸した事案についても、地元に与えた不安の大きさを踏まえ、米側に詳細な情報の提供を求め、得られた情報は随時、公表してきたところです。

(オスプレイの不時着水事故について)

- 本日午前、私とマルティネス司令官とのコミットメントの一環として、シュローティ在日米軍副司令官が来省し、
 - ・ 不時着水事故の原因は、もっぱら夜間の空中給油訓練時に給油ホースがオスプレイのプロペラの羽根に接触したことによるものと考えられ、
 - ・ 搭載システム、機械系統、機体構造を原因とするものではないとの説明があったとの報告を受けました。

(脚部が故障したオスプレイによる着陸について)

- 次に、同副司令官からは、今月13日に脚部が故障したオスプレイが普天間飛行場に着陸した事案について、
 - ・ このオスプレイは安全に着陸するための確立されたマニュアルに従い、着陸時の衝撃を吸収するパッドの上に緩やかに着陸した
 - ・ 機体に着陸に伴う損傷はなく、乗組員も負傷していない
 - ・ この機体は現在検査中であるが、その他の機体は脚部を含む点検を行い問

題は発見されなかった
などの説明を受けました。

(オスプレイの飛行再開についての評価)

- 不時着水事故の状況・原因、脚部故障への対応に関しては、これまで米側から得た情報等に基づき、防衛省・自衛隊の専門的知見に照らせば、合理性が認められます。
- また、米軍は、不時着水事故の発生原因に関わる空中給油については、集合教育、手順の確認、地上におけるシミュレーションが完了した後に実施することとしている。
- さらに、米軍は、同事故がオスプレイの搭載システム、機械系統、機体構造が原因ではないと考えられる中で、同日に別のオスプレイの脚部故障が発生したことも踏まえ、他の全ての機体について、脚部を含む点検を実施し、問題がないことを確認している。
- 以上を踏まえると、本日１９日午後からオスプレイが空中給油以外の飛行を再開するとしたことは理解できるものと考えます。

(総括)

- 我が国におけるオスプレイの配備については、我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、米国のアジア太平洋地域重視政策や即応体制整備の一環として、日米同盟の抑止力・対処力を向上させ、アジア太平洋地域の安定にも資するものです。
- 同時に、オスプレイを含む米軍機の飛行に際しては、安全の確保が大前提です。今般のオスプレイによる不時着水事故は、沖縄をはじめ全国の関係自治体、住民の皆様に大きな不安を与えました。このことを踏まえ、空中給油の再開の前に、安全上の措置について具体的な情報を提供することを求め、米側から了承を得ました。
- 脚部を故障したオスプレイが着陸した事案については、マニュアルに従った安全な運用が行われたとはいえ、米側から適時に情報が提供されなかったことにより、周辺住民等に無用の不安を与えてしまったことは否めません。このため、今回のような航空機の安全に関わる事案をはじめ、周辺住民等の生活に影響を及ぼしかねない事案について、速やかに連絡する方法を確認することを日米間で合意しました。

(以上)